

トピック：「伊豆沼・内沼で越冬するオオハクチョウの渡り経路が明らかとなりました」

伊豆沼・内沼で 33 羽、北海道屈斜路湖で 14 羽、計 47 羽のオオハクチョウを捕獲し、衛星追跡したところ、オオハクチョウはサハリンやアムール川河口、オホーツク海北岸を中継し、コリマ川やインディギルガ川流域の湿地帯で繁殖及び換羽していることが明らかとなりました。

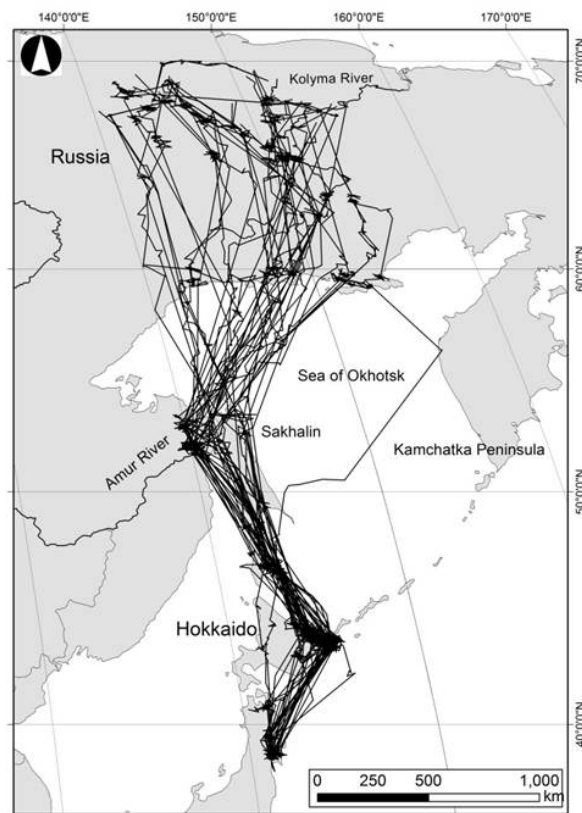
春の渡りでは、伊豆沼・内沼を出発したオオハクチョウは 86 日をかけて 3800km を移動して繁殖地に到着しました。秋の渡りでは、繁殖地から伊豆沼・内沼まで 54 日をかけて 3500km を移動しました。

この研究は東京大学樋口広芳研究室（当時）とアメリカ地質調査所を中心とした共同研究で、嶋田が代表して論文を執筆したものです。Ornithological Science 誌に受理されました。

Journal: Ornithological Science

Title: Satellite tracking of the migration of Whooper Swans *Cygnus cygnus* wintering in Japan

Authors: Tetsuo SHIMADA, Noriyuki M. YAMAGUCHI, Naoya HIJIKATA, Emiko HIRAOKA, Jerry W. HUPP, Paul L. FLINT, Ken-ichi TOKITA, Go FUJITA, Kiyoshi UCHIDA, Fumio SATO, Masayuki KURECHI, John M. PEARCE, Andrew M. RAMEY, Hiroyoshi HIGUCHI



2009 年のオオハクチョウの春の渡り